

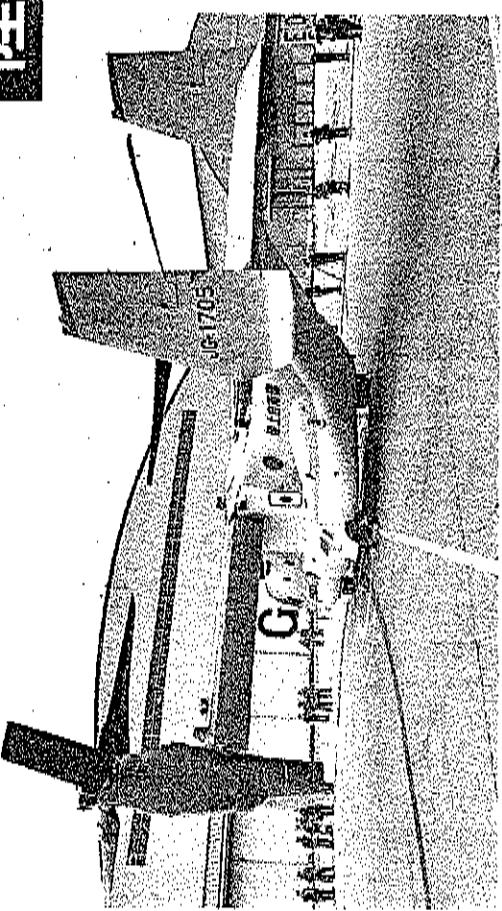
24年度中に「火力化」

佐賀先港配備強行狙う

オースプレイ
三号

陸上自衛隊は垂直離着陸機V-22オスプレイ全7機の日本配備を年内にも実現させ、陸上自衛隊を主任務とする水陸機動団（長崎県佐世保市）の「空中機動」輸送を可能にする「火力化」を2025年3月までに達成する計画である。しかし、日本共産党の森田恵一衆院議員が入手した陸軍内部文書で判明しました。

内部文書を森田氏入手



陸空軍駐屯地に駐機するV-22オスプレイ（千葉県木更津市）

防衛省は通常佐賀空港へのオスプレイ配備を狙っていますが、駐機場などを建設するための用地買収が実現していないため、木更津駐屯地（千葉県木更津市）に暫定配備。5日現在で14機が配備されています。

内部文書によれば、オスプレイを2個中隊（第107、108飛行隊）に8機ずつ配備し、1機を教育用に充當。C日からなる第109飛行隊とあわせて、「輸送航空隊」を編成します。その上で、24年度中に、夜間も含め、「12機で敵の脅威が高い地域において、増強1個中隊の空中機動等ができる」ことを目標としています。

こうした運用のためには、水陸機動団の拠点である佐世保に近い佐賀空港への配備が不可欠となりま

す。夜間訓練や低空飛行など、激しい訓練による騒音も想定されます。

佐賀空港の開設にあたっては、県と地権者である有明海漁協との「公害防止協定」に賛成で、軍民共用を確立してきましたが、昨年11月、共用を可能にするよう資料の内容を変更。防衛省は21日、「協議会に決定権はない」とする意見書を協議会に送付しています。

省による運営執行部の切り替えが出来どおりました。

建設予定地の民有地を管

理運営する協議会は1月1日、臨時総会を開いて用地買収の可否を議決しますが、地権者有志は21日、「協議会に決定権はない」とする意見書を協議会に送付しています。